

## 平成23年度第5回国立市立学校給食センター運営審議会記録（要旨）

日 時	平成24年2月23日（木）午後2時00分から午後3時20分
場 所	国立市立学校第一給食センター会議室
出席委員	16名
欠席委員	2名
傍 聴	なし
議 題	①審議会記録の確認について ②事業報告について ③学校給食費収支状況について ④放射性物質にかかる食材の安全について ⑤平成24年度主要施策と課題について ⑥その他

### 1. 開会挨拶（牧野会長）

本日はご多用の中を出席いただきまして、誠にありがとうございます。

これより平成23年度第5回国立市立学校給食センター運営審議会を開始します。

### 2. 審議会記録の確認について

事前に送付した第4回の審議会記録について、特に委員から追加や修正等の意見がなかったため、改めて意見を伺ったところ特に意見もなく送付したとおりで了解された。

### 3. 事業報告について

事務局から資料に基づき、前回は視察であったため前々回の審議会以降本日までの給食センターにおける主な事業、放射性物質の測定結果等についての報告を行った。

また、委員から前回の視察の感想をいただいた。

#### 【主な感想等】

- ・検査している方の熱意が感じられた。直接、話が聞けたことと測定機器も見学できて有意義だった。
- ・多種の検査機器があり測定体制が整っていたと思う。大変勉強になった。
- ・実際にスペクトルを見せてもらい検査の体制と現場の話が聞けて大変良い経験となった。
- ・単純に測定のみならず、これからの日本全体のことを非常に思っていることが感じた。参加された委員の真剣な眼差しも印象に残った。

#### 4. 学校給食費収支状況について

事務局から資料に基づき、4月1日から12月31日までの学校給食費の収支状況についての報告を行った。なお、併せて監査員から監査の報告があった。

##### 【主な意見等】

- ・12月31日現在で3,250,321円が未収入で、収納率が98.7%であるが、この要因は何か。  
→9割方が銀行振り込みの利用であるが、残高不足等により収納されていない現実がある。
- ・蒲郡市では100%の徴収率で、給食費は市の会計に組み入れて処理されている。学校給食法に基づき徴収していると思うが、給食費会計のあり方や徴収事務を厳格に行わなければいけないと思う。  
→給食費は、教科書代と同様に私費扱いで処理している。収納率については、100%に達していない状況なので努力したいと思う。

#### 5. 放射性物質にかかる食材の安全について

事務局から資料に基づき、課題、目標の設定及び目標実現のための方策について提案し、審議の結果、課題、目標の設定及び目標実現のための方策については次のとおり確認された。

①課題：子どもたちの内部被曝

②目標：子どもたちの内部被曝を可能な限り抑えること

③目標実現のための方策：放射能の少ない食材、独自での放射能測定体制、独自の実施基準、国の規制値

また、事務局から今後の取りまとめの方向性として、方策ごとに現状と課題を抽出し、審議会にて評価するような提案を行い、提案のとおりで確認された。

##### 【主な意見等】

- ・独自の実施基準は、市独自での実施基準を定めるところまで考えているのか。  
→市独自での基準の設定は困難であると考えている。現実的に対応できる、できないという部分はあるが、先進市で取り組んでいる状況もあり、本審議会の審議の上では選択肢、または取り入れる項目として当然上がってくるものと認識している。

#### 6. 平成24年度主要施策と課題について

事務局から資料に基づき平成24年度の主要施策及び課題（案）についてを説明し、資料のとおりで確認された。

##### 【主な意見等】

- ・施設の耐震基準は大丈夫ということだが、古い施設で湿度が高くカビなどの検査は実施しているのか。  
→カビは検査機関での検査を実施し、確認している。また2年に1回の頻度で天井と壁面の改修を行っている。
- ・耐震診断の結果、市全体で検討しそれからの改修となるのか。施設の大規模改修は白紙に

なったのか。

→市としては先ず耐震改修が優先ということがあり、施設の大規模改修は企画部での評価による全体的な検討が始まったばかりなので、今後の状況は未定としか答えられない。

## 7. その他

### 【委員から】

- ・牛乳からセシウムが検出される原因を東毛酪農業協同組合は把握しているのか。  
→東毛酪農業協同組合からの報告では牛の飼料の関係と聞いている。
- ①牛のえさには濃厚飼料と粗飼料の2種があり、濃厚飼料は俗に配合飼料と呼ばれ100%が海外からの輸入穀物で、粗飼料は植物繊維を摂取するための飼料である。
- ②我が国の食料自給率は40%そこそこで、一昨年出された国の基本計画では平成32年までに粗飼料の国内自給率を100%にするという計画である。
- ③牧草は、年に2、3回刈り取るが1回目がだいたい5月中旬で、その刈った牧草が原因であるということはよくわかっている。
- ④東毛酪農業協同組合は理念に基づき事業を行っており、少なくとも数値は出ている状況にある。100%海外のえさを使うべきか、それが良しとするならばそれを要求しましょう。でも彼らの理念からは遠く離れてしまう。東毛酪農業協同組合を辞めてしまうか。数年前までの東京都の枠に入って、つい最近放射性セシウムの含有量を報告した合乳にするか。牛乳の提供を辞めてオレンジジュースを飲んだ方がこの点から言えば最も安全と言えるかもしれない。

### 【事務局から】

- ・2月8日に給食センターに放射能測定機を設置し来週には測定を実施したいと考えている。  
→環境保全課では放射能測定に関して嘱託職員を募集するということだが、この方は給食センターの測定も行うのか。また、放射性物質は、測定方法によっては違った数値が出るので測定機器をパソコンに接続してスペクトルを確認しなければだめなのかと思っているが。

環境保全課の嘱託職員は給食センターの測定は行わない。給食センターに設置した測定機器は付属のモニターにより測定の操作と数値等の読み取りが可能であり、本機器へのパソコン接続の一番の利点はデータの保存と言われているので、用途的にはモニターのみで満足している。

## 8. 閉会挨拶（牧野会長）

次回は、6月28日の木曜日となりますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、第5回学校給食センター運営審議会を終了します。